並んで順序よく田植えをする児童たち（梅沢小学校）

# つるた農事だより　田植え・人工授粉

泥が気持ちいいとはしゃぐ子どもたち（田んぼの学校）

田植え後はご覧のとおり全員泥だらけ、国際交流員のエマさんも参加しました（梅沢小学校）

## 町が活気づく田植え

5月14日ごろ（昨年は5月15日）から田植えが始まり、その後約2週間にわたり各地の水田で田植えが行われ、町に活気あふれる農業の季節がやって来ました。

今年も、農業の町である鶴田らしい取り組みとして、児童たちによる農業体験学習「田植え」がそれぞれの小学校で行われました。

○5月20日（金）　富士見小学校
　作付け・うるち米（つがるロマン）
○5月25日（水）　菖蒲川小学校
　作付け・もち米
○5月30日（月）　梅沢小学校
　作付け・もち米
○5月31日（火）　胡桃舘小学校
　作付け・もち米

田植えはすべて手植えで行われ、児童たちは地元の農家の方から手ほどきを受けながら、泥まみれになり型どおりに順序良く植えていました。最後に田んぼの水口にお酒とお供えをあげ、今年の豊作を神様に祈っていました。

町では廻堰地区の水田（須藤喜與一さん所有）をお借りして、「水辺環境体験学習・田んぼの学校」を開設しています。これは、子どもたちが農作業体験を通して、自然豊かな水環境の基礎となる水と土の在り方を学ぶための事業です。

5月14日（土）、農作業経験の全くない町の児童20人が、Ｖｉｃ（ビック）ウーマンの方々の指導とジュニアリーダーたちの補助で田植えに挑戦しました。参加した子どもたちは、みんな泥んこになり

①佐藤勝博校長自らが田植えを教える胡桃舘小学校
②5月22日（日）、田植えの最盛期を迎え管内巡回督励が行われる
③中心の花にぽんてんで人工授粉する児童（水元中央小学校5年生・妙堂崎地区リンゴ園にて）
④最後にお供えをして神様に児童たちが豊作を祈る（菖蒲川小学校）
⑤「苗ちょうだい！」と催促する児童（梅沢小学校）⑥顔に泥を塗って楽しむ児童（胡桃舘小）
⑦献穀田で行われた田植え式の模様（新田子地区水田にて）
⑧1週間ほど遅れてリンゴの花も満開に　⑨児童たちに授粉について指導する中野光彦さん　⑩御田植祭で最後にお礼のあいさつをする齋藤博文会長　⑪泥の感触を楽しむ児童（富士見小学校）　⑫児童たちが田植えをする前を農家の方が型を付けて行く（富士見小学校）

ながらも素足で入る田んぼの感触を楽しみながら、丁寧に苗を植えていました。

## 献穀田で「御田植祭」

5月16日（月）、今秋の新嘗祭に献穀される水田で御田植祭が行われました。

新嘗祭とは、11月23日に天皇が神々に新米を供え自身でも召し上がる宮中の行事（今の勤労感謝の日）です。

式では、献穀者の鶴翔クリーンライス部会齋藤博文会長ほか関係者が見守る中、豊作を願う神事を行い、その後、36アールの水田に齋藤会長と奉仕の女性4人が1列に並び、つがるロマンの苗を手植えしていきました。

## リンゴの授粉を学ぶ

5月18日（水）、中野光彦さん（妙堂崎）のリンゴ園地で、水元中央小学校の5年生17人が、リンゴの人工授粉を体験し、授粉の大切さを学びました。

作業に入る前、指導する中野さんから、どんな花粉を用いるのか（異種のリンゴの花粉を用いる、ふじには世界一など）、どの花のどの部分に授粉するのか（中心花のめしべ）、なぜ授粉が必要なのか（授粉しないと結実しない）などの説明を聞き、作業では中野さんの指導を受けながら中心花に丁寧に花粉を付けていました。

現在、リンゴの授粉はマメコバチが主流となっていますが、この体験学習によって、授粉の大切さが児童たちに理解されたようでした。